

2024年度第2回町田市子ども・子育て会議

議事要旨

【開催概要】

日時：2024年6月27日（木） 18:00～20:15

会場：市庁舎 会議室3-2・3-3

【議事次第】

1 開会

2 事務連絡

3 議題

（1）「保育料のあり方検討部会」及び「育成料のあり方検討部会」の中間報告について（資料1～7）

（2-1）「新・町田市子どもマスタープラン（後期）」の進捗について（資料8～9）

（2-2）「第二期町田市子ども・子育て支援事業計画」について（資料10）

（3）「子ども発達支援計画行動計画（第二期障害児福祉計画）2021～2023」の総括について（資料11～12）

4 報告

（1）次期「町田市子どもマスタープラン」策定に係るヒアリングについて（資料13～14）

（2）コドマチフェスティバル「考えてみよう！子どもにやさしいまち」の実施結果について（資料15）

（3）子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）2023年度取り組み内容及び自己評価結果について（資料16）

（4）「新・町田市学童保育クラブ質の向上5カ年計画」の進捗について（資料17）

（5）2024年4月認可保育所等入所待機児童数（確定値）について（資料18）

（6）未就園児預かり推進事業の実施について（資料19）

5 その他

6 閉会

【配布資料】

資料 1	2024年度第1回保育料のあり方検討部会の開催結果について
資料 2	保育料のあり方検討について
資料 3	保育料に関する市民意識調査（依頼文と資料）
資料 4	保育料に関する市民意識調査（設問）
資料 5	2024年度第1回育成料のあり方検討部会の開催結果について
資料 6	育成料のあり方について
資料 7－1	学童保育クラブの育成料（利用料）に関する意識調査
資料 7－2	「学童保育クラブ育成料（利用料）」に関する市民意識調査への協力 のお願い
資料 8	「新・町田市子どもマスタープラン（後期）」の評価のまとめ
資料 9	「新・町田市子どもマスタープラン（後期）」2023年度実績
資料 10	「第二期町田市子ども・子育て支援事業計画」2023年度実績
資料 11	「子ども発達支援計画行動計画（第二期障害児福祉計画）2021 ～2023」2023年度実績
資料 12	「子ども発達支援計画行動計画（第二期障害児福祉計画）2021 ～2023」の総括について
資料 13	次期「町田市子どもマスタープラン」策定に係るヒアリングに ついて
資料 14	次期「町田市子どもマスタープラン」策定に係るヒアリングへの 意見一覧
資料 15	コドマチフェスティバル「考えてみよう！子どもにやさしいまち」 の実施結果について
資料 16	子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI） 2023年度取り組み内容及び自己評価結果について
資料 17	新・町田市学童保育クラブ質の向上5カ年計画の進捗について
資料 18	2024年4月認可保育所等入所待機児童数（確定値）について
資料 19－1	未就園児預かり推進事業の実施について
資料 19－2	チラシ「未就園児預かり推進事業（子どもの森幼稚園）」
資料 19－3	チラシ「未就園児預かり推進事業（カナリヤこども園）」

資料 19-4 チラシ「未就園児預かり推進事業（高ヶ坂幼稚園）」

２０２４年度第２回町田市子ども・子育て会議 委員出席者

子ども・子育て会議 委員

氏 名	所 属	出 欠
◎鈴木 美枝子	玉川大学	出
○菅野 幸恵	青山学院大学	出
下尾 直子	洗足こども短期大学	出
駒津 彩果	東京三弁護士会多摩支部	出
矢口 政仁	町田市私立幼稚園協会	出
関野 鎮雄	町田市法人立保育園協会	欠
叶内 昌志	町田市社会福祉協議会	出
畠中 勝美	町田市立小学校校長会	出
杉浦 元一	町田市立中学校校長会	出
旭岡 善介	東京都立町田の丘学園	出
朝倉 寛喜	町田市民生委員児童委員協議会	欠
大久保 麻衣子	町田市立中学校ＰＴＡ連合会	出
村野 明子	町田市医師会	出
松井 大輔	町田商工会議所	欠
井上 善史	市民	出
蓮池 真穂	市民	出
渡邊 蔵之介	市民	出
安藤 朝美	町田市青少年委員の会	出
酒井 恵子	町田市障がい児・者を守る会すみれ会	欠

◎会長 ○副会長

備考：傍聴者（１名）

2024年度第2回町田市子ども・子育て会議 事務局出席者

氏 名	所 属
鈴木 亘	子ども生活部部長
大坪 直之	子ども生活部子ども総務課長
菊地 仁幸	子ども生活部児童青少年課長
小林 慶美	子ども生活部児童青少年課担当課長
三浦 啓史	子ども生活部保育・幼稚園課長
河手 貴史	子ども生活部保育・幼稚園課担当課長
香月 勇人	子ども生活部子育て推進課長
堀 秀彰	子ども生活部子ども家庭支援課長
江成 裕司	子ども生活部子ども発達支援課長
遠藤 聡人	子ども生活部子ども発達支援課相談・療育担当課長
栗原 康二	地域福祉部障がい福祉課長

子ども総務課事務局：奥 雅文、深井 健央、尾島 早紀

【議事内容】

1 開会

子ども総務課企画総務係長：ただいまから、2024年度 第2回 町田市子ども・子育て会議を開会いたします。私は、子ども総務課企画総務係長の奥と申します。議題に入る前まで、司会進行を務めさせていただきます。

議事に入る前に、会議欠席のご連絡をお伝えいたします。本日は関野委員、松井委員、酒井委員から欠席との連絡が入っております（朝倉委員欠席）。本日は半数以上の委員の出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。また、事務局では、保健予防課母子保健担当課長の山形、指導室長兼指導課長の大山が欠席のため、欠席の課に関する質疑がございましたら、事務局がお預かりし、後日報告いたします。また、本日の議題等の関係上、児童青少年課担当課長の小林と、保育・幼稚園課担当課長の河手が事務局として参加いたします。そして、会議の運営支援として、株式会社創建が参加いたします。議事要旨作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。本日の会議の進行ですが、2時間程度を目安に進行していきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

2 事務連絡

子ども総務課企画総務係長：会議の公開についてですが、本日は1名の方が傍聴を希望されております。特にご意見がなければ、公開するというところでよろしいでしょうか。

一同：（異議なし）

子ども総務課企画総務係長：それでは傍聴人の方の入室をお願いいたします。傍聴の方が入室されましたので、会議を進めさせていただきます。

続きまして、町田市子ども・子育て会議委員の変更がございましたので、紹介をさせていただきます。本日の会議より、町田市立中学校PTA連合会より選任の渋谷委員から、大久保委員に交代となりました。大久保委員、一言お願いいたします。

〔大久保委員あいさつ〕

子ども総務課企画総務係長：続きまして、本日配布している資料の確認をいたします。お手元の資料をご覧ください。

■資料の確認

〔資料 1 ～ 19 の確認〕

子ども総務課企画総務係長：ここからの進行につきましては、鈴木会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 議題

（１）「保育料のあり方検討部会」及び「育成料のあり方検討部会」の中間報告について

鈴木会長：まずは、「保育料のあり方検討部会」及び「育成料のあり方検討部会」の中間報告についてです。第 1 回の検討部会をそれぞれ 5 月に開催しました。

「保育料のあり方検討部会」について、私の方から少しお話ししたいと思います。第 1 回ということもあり、実際に子育てしている方や経営者など、それぞれの立場の方から、非常に多くの忌憚のないご意見をいただきました。今後も意識調査の結果等も踏まえて検討していけたらと思います。それでは事務局よりご説明をお願いします。

〔資料 1 ～ 4 の説明〕

菅野副会長：「育成料のあり方検討部会」については、5 月 21 日に開催しました。保育料と同様、色々なご意見をいただき、率直な意見交換ができたと思っております。詳細は事務局よりお願いします。

〔資料 5 ～ 7 の説明〕

矢口委員：保育料のあり方検討部会について、この 1 か月で大きく変わってしまい、7 月 7 日の東京都知事選挙を過ぎないと全く分からない状況であるため、市民意識調査の日にちが変わったのかと察しております。それに伴い、結果の集計、報告書の作成、第 2 回保育料のあり方検討部会までの日にちが少なくなっていると思いますが、十分な時間は確保できているのでしょうか。

保育・幼稚園課担当課長：おっしゃるとおり、選挙結果によって東京都の保育施策が大きく変わる可能性があります。新たな施策が展開された場合には、現在予定している検討部会の日程の見直しもあり得ると考えております。

矢口委員：資料 3「保育料に関する市民意識調査」について、町田市の現在の保育料が

どのくらいなのかを加筆するように、検討部会委員からご意見があったと思います。4 ページに「多摩市 26 市の上位（高い割合）から数えた場合、12 番目で中位となっています」とありますが、具体的な金額を載せることはできないのでしょうか。

保育・幼稚園課担当課長：現在、他市の状況の資料を収集しているところであり、次回以降の検討部会の中では、他市の資料をお示ししながら検討していく予定です。それを調査対象の方にどうお示ししていくかは、これから検討させていただきたいと思います。

（2－1）「新・町田市子どもマスタープラン（後期）」の進捗について

鈴木会長：続きまして、「新・町田市子どもマスタープラン（後期）」の進捗について、事務局から説明をお願いします。

〔資料 8～9 の説明〕

蓮池委員：10 年という期間の中で、子どもたちを取り巻く状況がすごく変わってきたと思います。10 年前にはまだ話題に上っていなかったような課題も増えていると思いますが、そういった背景を踏まえて、来年度以降に施策を増やしたり、変えたりしていくことは想定されているのでしょうか。

次期計画は、現行計画に出ている指標や施策に加え、現状を踏まえて新しい施策が追加、変更される予定があるという理解でよろしいですか。

子ども総務課長：現行計画は 2020～2024 年度の後期行動計画であり、現在、2025 年度からの計画を策定しているため、現行計画については、ここからの見直しというのは考えておりません。

次期計画については、現行計画の内容や現在の社会情勢などを踏まえて、新たな事業を加えたり、これまでの事業を見直したりする予定であります。

井上委員：目標・結果・実績を全て挙げていただいていると思いますが、目標と結果だけ並べて、内容に関して全くフィードバックが出されていません。件数よりも、どういう対応をしたかの方が大切だと思いますが、その点はいかがでしょうか。

子ども総務課長：資料 9 には、実施の状況や結果に対する評価、それについての課題をどう持っているかなどを記載しております。記載するフォーマットにも限りがあるため、1 つ 1 つの詳細は資料に載っている程度になりますが、振り返りや

見直しは、計画を進める中で行っております。

井上委員：同じ人が複数回相談に来た時は、カウントはどのようにするのでしょうか。

子ども総務課長：相談支援などで1人の方を継続的に支援する場合は1件になりますが、1人の方でも別事案だと2件になる場合もありますので、相談の内容によって変わってきます。

渡邊委員：資料9の4ページ、事業番号9「市内保育所の保育士等の人材確保事業」について、当初がどのような計画で、今回どう変えたためにこれだけ減ってしまったのかを教えてくださいと思います。

子育て推進課長：保育士の人材確保について、当初に想定していた見込みから状況が変わってきたため、目標から落ち込んだということになります。具体的には、東京都やハローワークと連携した就職相談会を実施していますが、コロナ禍前は300人規模で年間ご参加いただけるようなことができていたので、それくらいの規模を見込んでおりました。保育需要の増大によって施設の増加や保育士の需要が増加する中で実施はしてはいますが、コロナ禍で落ち込み、応募自体が減っており、残念ながら参加に至りませんでした。この2、3年は、バスツアーで実際に現場を回ってもらうような企画もしておりますので、引き続き、今の情勢に合ったものを検討していきたいと考えております。

（２－２）「第二期町田市子ども・子育て支援事業計画」について

鈴木会長：続きまして、「第二期町田市子ども・子育て支援事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

〔資料10の説明〕

矢口委員：先日、こども家庭審議会子ども・子育て支援等分科会で、待機児童がいなくなっていることを見越して、次の段階である利用調整などについても、子ども・子育て会議の中で話をしていくべきではないかという意見がありました。次の整備と共にそれも含めて考えていかないといけないと思いますので、町田市でもそういったものを盛り込んでいただけたらと思います。

駒津委員：資料10の7ページ「④こんにちは赤ちゃん訪問」について、実績が出生数に対して102%となっていますが、これは2022年度に受けなかった人も受けたということでしょうか。

子ども総務課長：ニーズ量については、実績対象年度の前年度に生まれた人であっても、実績対象年度に訪問の希望があるものは、その数字を含んだ数としております。その結果、出生数を上回る１０２％の希望者となっております。２０２３年度は、出産・子育て応援交付金事業を開始したことにより、例年より訪問希望が多くなりました。

駒津委員：出産・子育て応援交付金は、２０２２年度受けた人は受けられなかったのでしょうか。２０２２年度受けていなくて、２０２３年度受けた方は交付金をもらったということなのでしょうか。

子ども総務課長：確認して、後日回答させていただきます。

蓮池委員：資料１０の１４ページ「⑩病児・病後児保育」について、病児保育の施設自体が非常に少なく、インフルエンザが流行る時期などは、なかなか予約が取れないといった状況が一般的に聞かれると思います。表の数字を見ると町田市の病児保育はかなり充実していて、数に非常に余裕があるように見えますが、実態としてはどうなのでしょう。

子育て推進課長：利用希望が集中して、なかなか予約が取れず、利用がしにくい時期が確かにあるため、申込みをしたい時に利用できないということがあるかと思います。表の確保量は、年間の空き状況と使っている数で算出をしており、閑散期がここに含まれているため、なかなか集中している時期のニーズ量との比較は難しいと思います。ここで空いているから、充足しているという認識はしておりません。

蓮池委員：市立の施設型を増やしていくのも大事ですが、民間で推進しているような病児・病後児専門のベビーシッターや、訪問型の保育も活用することで、必要なときに利用者が使えるように、市が指定した業者に委託をして、かかった分を市が補填をするというやり方もあると思います。そうすることで、利用者のニーズにに応じていくことができると思うので、町田市の今後の病児・病後児保育の整備の方針として検討していただけたらと思います。

子育て推進課長：ご提案ありがとうございます。施設型でのメリットもありますので、まずは地域別の施設の差を埋めていきたいと思いますが、他自治体で訪問型を展開されているところもありますので、他の自治体の動向なども参考にしながら、引き続き検討していきたいと思います。

村野委員：資料１０の１０ページ「⑦ファミリー・サポート・センター事業」について、援助会員は増えているでしょうか。以前は社会福祉協議会の方が病児保育サポーターをやって病児保育をしてくださっていたと思うので、ファミリー・サポート・センターも上手く協力できると良いかと思いました。

子育て推進課長：援助会員は少しずつ増加しており、会員数としては約３，０００人の内の６００～７００人に近づいています。ファミリー・サポート・センターでの預かりについては、よく馴れた方の預かりの中で、援助会員と依頼会員の同意があったときに限られ、原則、病気の場合は預からない形になっております。以前の病児保育サポーターというのは、市の事業としてではなく、社会福祉協議会以前の委託先の方の自主事業で、病気のときのオプションとして実施されていたと聞いております。ファミリー・サポート・センターの援助会員は一般の方ですので、お子さんの安全管理を考えますと、有償ボランティアの範疇でしっかりした病児保育の形をとるのは難しいと考えております。

村野委員：責任が伴うことなので、なかなか大変なことだとは思っています。看護師の方などが援助会員になっていただけると良いと思いました。

子育て推進課長：保育士も看護師も潜在の方がなかなか表に出てきてもらえないので、そういったところに声をかける手法があれば、取り組みたいと考えております。

鈴木会長：病児・病後児の保育については、非常にニーズがあると思いますが、ファミリー・サポート・センターだとそれに対して保障が難しい部分があるかと思うので、そういったところも含めて、また考えていただけたらと思います。

（３）「子ども発達支援計画行動計画（第二期障害児福祉計画）２０２１～２０２３」の総括について（資料１１～１２）

鈴木会長：続きまして、「子ども発達支援計画行動計画（第二期障害児福祉計画）２０２１～２０２３」の総括について、事務局から説明をお願いします。

〔資料１１～１２の説明〕

下尾委員：資料１２の３ページ（３）にある「療育記録ノート」について、長期にわたってノートをつけるのは、就学や就労の際に役に立つと思いますが、活用の仕方の研修などはあるのでしょうか。お渡しするだけに留まっているのでしょうか。

子ども発達支援課長：使い方の研修はしておりませんが、お渡しの際に使い方の説明はしております。療育記録ノートは、母子手帳のような形でリングファイルになっており、色々付け足せる形になっているので、そういったことや活用方法を説明してお渡しするように心掛けております。

下尾委員：もし可能だったら、今後の計画の中に入れていただけたらと思います。意図があっても、その意図がなかなか伝わっていないこともあると思うので、よろしくをお願いします。

子ども発達支援課長：教育センター等でも広く配布できればと思っておりますので、そういったところを踏まえながら、なるべく多くの方に活用していただけるよう努力してまいりたいと思います。

井上委員：保育園に子どもを通わせていますが、障がいを持った方と触れ合う場面があまりないように思っています。障がいを持った方はどのようなサービスを利用されているのでしょうか。

子ども発達支援課長：普段の送迎では気付かないかもしれませんが、ちょっと心配なお子さんは結構いらっしゃいます。多少心配でも健常児と同じ環境で成育してほしいという保護者も多いので、保育園等に通っている方も多いです。

第三期障害児福祉計画の策定の際に行った保育園等関係者に対するアンケートでは、クラスや施設に発達が気になる子がいると答えた方は9割を超えていました。まだ障がいの認定や判定を受けていないけれども、そういったところがあるという現状があります。その前提で、例えば保育園に通いながら必要な支援を受けて、地域で暮らしていくのを望まれる方も多いので、保育所等訪問支援などで指導や助言を行うこと等をしております。保育園に通うのが難しいくらい障がいをお持ちの方は、子ども発達センターや児童発達支援事業所に通うことも多いですが、地域の中で障がいがあってもなくても、一緒に暮らして成長していくことが望まれることが多いので、インクルーシブな支援ができる体制を整えていきたいと考えております。

井上委員：資料12の3ページ(4)について、障がい者スポーツ大会を町田市で行ったり、小・中学生や高校生を対象に活躍する人たちと交流できるような場が設けられていたりするという認識でよろしいでしょうか。

子ども発達支援課長：おっしゃるとおり、障がいを持っている子もパラスポーツに触

れることもできますし、F C 町田ゼルビアと子ども・子育てに係る連携協定を結び、毎回ではありませんが、町田G I O Nスタジアムにセンサリールームを設置していただいております。

矢口委員：障がいを持っている園児は多く、昔とは全然違うのが現状です。市役所のトイレの整備などは、もっとやっていただきたく、計画の中に入れていただけたらと思います。

村野委員：子ども発達センターの方は、各施設をどのくらいの頻度で訪問されているのでしょうか。

子ども発達支援課長：年に3・4回、定期的に通って様子を見ております。要望はかなり多いですが、町田市内で保育所等訪問支援事業をやっているのは子ども発達センターだけであるため、要望になかなか応えていけないと思っております。保育所等訪問支援事業をやっている民間の事業所もありますが、市内にはないため、近隣地域から町田市内の学校に来ているような事業所もあります。事業所によりますが、月1・2回対応してくれているところもあります。

旭岡委員：医療的ケア児は、保育園と併用して子ども発達支援センターみたいなところで教育を受けることも可能になっているのでしょうか。

子ども発達支援課長：保育園に通いながら、週1回子ども発達センターに通っていただき、集団療育を受けるという形でご利用いただくことはできます。子ども発達センターの方でも医療的ケアが必要な子どもの受入れはしておりますが、保育園に通いながら通っている方は、実際はいらっしゃらないと思います。

旭岡委員：町田市は、今までは医療的ケア児が通うところがあまりありませんでしたが、最近は拡充してきたらと思います。

資料12の3ページの(4)①にある、通常学級の児童・生徒と特別支援学級との交流については、本校でもとても良い成果を挙げています。新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちの体力が大分落ちてしまっていることが問題になっているので、そういったことも計画に盛り込んでいただけると有難いです。

子ども発達支援課長：町田の丘学園にはご協力いただき、連携を取らせていただいておりますので、インクルーシブ推進のためにも、今後ともお付き合いいただければと思っております。

蓮池委員：医療的ケア児に対する取組が町田市の中でこういった形で進められてきたのかについて、概要を伺いたいです。資料１１の５ページのＮｏ８「居宅訪問型児童発達支援」について、こちらは現状どれくらい利用されているのでしょうか。また、９ページのＮｏ２９「保育園等での医療的ケア児の受入れ」について、ニーズに対してどれくらい対応できているのか、状況を教えていただきたいです。

子ども発達支援課長：基本的に児童発達支援の事業所は、子ども発達センターも含め民間事業所もありますので、医療的ケア児や重度の障がいをお持ちのお子さんを受け入れられるところは、徐々に増えてきております。あらゆる子どもが地域で分け隔てなく過ごせて、成長していけるような環境が求められていますので、医療的ケア児も通えるような環境として、まずは公立保育園での受入れを始めました。昨年度からは、法人立の保育園にもご協力をいただいて、医療的ケア児を受入れ可能な園に手を挙げていただきましたが、２０２３年度の募集では希望者がおらず、実際通っていただいているのは、公立保育園１園になります。現在、保育園でお受けしている医療的ケアの種類の内容について制限があり、そういったところで諦めている方もいらっしゃるため、現在、保育園での受入れのガイドラインの見直しについて協議会を通して進めています。今後拡充を図っていければと考えております。

居宅訪問型児童発達支援については、民間の事業所が１つ実施しており、昨年度そこに合わせてもう１事業所開設しております。

蓮池委員：医療的ケアと一言と言っても、内容はその子によって様々ですし、保育園で対応可能な医療的ケアは自治体によってかなり種類が違うと思います。ぜひ保育園の受入れに際しても、子どもの様子に応じて対応を考えるとといったスタンスで調整していただけると有難いです。障がいのある子も世の中で活躍できるし、そういった子が身近にいることが子どもたちの日常で、当たり前の景色になるように今後も取り組んでいただきたいと思います。

子ども発達支援課長：どんな医療的ケアが必要な子であっても、できるだけ幅広く受け入れられる環境を整えていきたいと考えております。一方で安全に過ごしていただくことが大前提ですので、無理に受け入れることは非常にリスクが伴います。年齢が低いほど自分で認識できないため、安全対策をきちんとした上で受

入れ環境を整えていきたいと思います。

矢口委員：この会議とは別にガイドラインを作成している会議があり、そこが来年ガイドラインを作成しますが、保育園協会と話し合って、更に受け入れられる園を増やそうとしています。ただ、医療ケア児を受け入れる申込期間がとても短いのが現状です。保育園に入るための資格を有する必要もありますが、ほとんどの方は保育園に預けてから仕事に復帰しようとするので、申込の際に保育を必要とする要件を満たしていない人が多いです。そのため、全員が申し込んで、全員受け入れられたという認識は違うと思います。現在は、これから更に広げていく活動を保育園協会と市で行っていったらという段階になります。

鈴木会長：ぜひ前向きに、本当に必要な方に上手くつなげられるようになると良いと思います。

杉浦委員：中学校では、特別支援学級において教育を受けることが適当と出ていながら、通常学級を希望してくる保護者が多くなってきた感覚があります。障がいのある子でも通常学級の中で育てたいという強い思いがある保護者もいれば、特別支援学級・特別支援学校には行かせたくないという思いから通常学級を選ばれる保護者も多いと思います。ただ、中学校になると、学力差の面が厳しく、通常学級に入ってくると非常に日常生活に困難をきたしてしまい、期末試験など受けても全教科0点というような生徒もいます。町田市の場合は、肢体不自由のお子さんに対しては支援員を教育センターの方でつけてくれています。知的障がいの場合には、通常学級に来て支援員はつけてくれない現状があり、その場合は通常学級の担任、学級担任や教科担任がその子のケアをしていくことになります。通常の学校生活が行われている中で、授業中では1人の先生が全体を見ながらその子をケアするということが行われています。特に体育や技術家庭など、実技を伴う授業では、安全面でも非常に難しいところも出ているので、かなり中学校では気を遣っている部分だと思っています。そういった現状があることをお伝えさせていただきました。

4 報告

鈴木会長：今回は6件の報告があります。質疑は全ての報告が終わった後に時間をとりますので、よろしくお願いいたします。

〔報告事項（１）～（６）の報告〕

蓮池委員：資料１６について、既に色々な子どもセンターがたくさんできていて、子どもたちの環境が整ってきているのはとても喜ばしいと思います。一方で、子どもの遊び場は、子どもたちが日常的に歩いて行けるような範囲が理想だと思っています。新しく何かを作るというよりは、今ある施設をもっと利用できると良いと思います。生涯学習センターの保育室の土日開放のように、市民センターの中の保育室や、保育園の土曜日空いているところを地域に開放するといった形で、子どもも親も歩いていける場所に必ず居場所があるということを進めていただけたら嬉しいです。

児童青少年課長：子どもクラブ「ゆめいく」を昨年７月に開館しましたが、これは、子どもたちが自分の足で行ける距離に、子どもセンターまたは子どもクラブがあるということを大事にしたいという考えに基づいています。人口のある程度多い地域で、子どもセンターまたは既存の子どもクラブ等がない場所として、成瀬地区と金井・薬師地区をまず整備していきたいという大きな考え方があります。

子どもに限定していない施設の利用拡大については、今後の課題として、様々施設とも事業の推進や理解の浸透も踏まえながら、考えていきたいと思っています。

子育て推進課長：土曜日の保育園は、平日の保育がメインの保育施設が運用しているところになりますので、現状としてはそれぞれの保育所の余力の中で、各法人の考えで運営をされています。土曜日の開放は、人手が薄いというところになるため、室内管理はなかなか難しい部分があると思います。夏場の暑いときは園庭だと意味がないですし、保育施設は未就学児が中心のため、小学生以上のようにフリーで開放することは難しいところがありますが、いただいたご意見を参考にしながら、様々なところで考えていきたいと思っています。

蓮池委員：資料１７の３ページ「戦略Ⅲ－３ 防犯対策の実施」について、非常に基本的ですが、引き続きお願いしたいと思っております。今、子どもの性被害が問題視されている中で、学童保育クラブ以外にも、子どもに関する施設の中での性犯罪を防止する取組について、前向きに検討いただけたら有難いです。

児童青少年課担当課長：様々なニュースでそういった問題が報道されているのは把握しておりますので、どのようなやり方ができるか研究してまいりたいと思います。

蓮池委員：資料１９の未就園児預かり推進事業について、今回同一世帯による利用期間は２か月となっていますが、今後ここは伸びていくものだと思います。２か月間

利用した後、お子さんや家庭とのつながりが切れてしまわないように何か仕掛けをしていただけると、より良い事業になるのではと思いました。

保育・幼稚園課長：本事業では、要支援の児童の皆様にご利用いただけるような仕組みとなっておりますので、実施予定園と連携を取りながら、必要に応じて必要な支援につなげてまいりたいと考えております。

渡邊委員：資料１５のコドマチフェスティバルについて、当日子どもを連れて参加しました。あれだけの規模のイベント運営は大変だったと思いますが、とても楽しめました。「町田市子どもにやさしいまち条例」のことが色々書いてあって、周知・啓発活動にはとても役に立ったと思います。

５ その他

村野委員：不登校に関して、学校に行きづらくなったお子さんが増えてきているのは、皆さんご存知だと思います。先日、町田市医師会の小児科部会の方に、不登校マップという、学校に行きづらいお子さんや保護者の方が、一目で、学校以外で通えるような施設を紹介しているマップを作ったということで、ボランティアの方が挨拶にいらっしゃいました。２５の選択肢を一覧で示しているものだったんですが、町田市はその会の方と連携する予定はおありでしょうか。

鈴木会長：今日は担当部署が不在のため、お調べしてから回答していただけるそうですので、よろしくお願いします。

他に何かございますか。よろしければ、進行を事務局にお返しいたします。

６ 閉会

子ども総務課企画総務係長：委員の皆様、ありがとうございました。以上で本日の会議は終了となります。次回の会議は８月２２日（木）となります。

以上をもちまして、２０２４年度 第２回 町田市子ども・子育て会議を閉会いたします。ありがとうございました。